



(写真上) 1929(昭和4)年に改築した日本楽器製造東京支店。木造の簡易的な店舗だった。(写真左) 1937(昭和12)～1940(昭和15)年頃の広告。[A]

1929年 (昭和4)

関東大震災で 被災した建物を改築

一九二三(大正十二)年の関東大震災でほぼ全壊し、バラック建築で営業を続けていたが、一九二九(昭和四)年に大改築を行い、日本楽器製造東京支店の名前を大きく掲げて再スタートを切った。

その後も改修修理が施され、戦時中の空襲でも奇跡的に焼け残ったが、一九五〇(昭和二十五)年三月、類焼により建物は解体された。



1940(昭和15)年の改修修理を終えた直後の建物。1階(写真右上)は楽器売り場、2階(写真右下)は電気蓄音機やラジオなどのオーディオ売り場。2階のこの空間は戦後の一時期、ミュージック喫茶のはしりとも言える「山葉グリル」として営業し、レコード会社の新人歌手が登場する歌謡コンサートや、クラシック音楽のコンサートなどが行われていた。[D]

明治時代から続く周辺の老舗店

銀座7丁目のヤマハ銀座店の周辺には、老舗の飲食店も多い。斜め向かいの資生堂パーラー(銀座8丁目)は、1902(明治35)年に日本で初めての「ソーダファウンテン」として資生堂薬局の一角に誕生。現在はレストランやサロン・ド・カフェで、伝統的な西洋料理やアイスクリームソーダなどを楽しめる。



1919(大正8)年当時の資生堂薬局(写真左)。この場所に現在の資生堂パーラーがある。[E]

参考文献:『ヤマハ草創譜』(三浦啓市著／按可社)、『ヤマハ100年史』
画像提供: [A] ギンザのサエグサ文化事業室、[B] 銀座十字屋、[C] 山野楽器、
[D] 秦川堂書店「震災復興(大銀座)の街並みから」、[E] 資生堂パーラー、[F] 按可社／三浦啓市氏



明治末期の銀座通り。現在の銀座7丁目から4丁目方面を眺めた風景。通りの右にある三階建ての白い建物(色は写真に着色されたもの)が日本楽器製造東京支店／共益商社楽器店。壁に「山葉オルガン、ピアノ」などの文字が書かれている。[A]

1910年 (明治43)

東京市京橋区竹川町に 日本楽器製造東京支店 として開設

ヤマハの創業者、山葉寅楠は一八八七(明治二十)年にオルガンの修理から事業を始め、一八九七(明治三十)年、日本楽器製造株式会社を静岡県浜松に設立した。

そして一九一〇(明治四十三)年頃、東京市京橋区竹川町(現在の銀座七丁目)の共益商社ビル内に東京支店を開設した。

共益商社は元々楽器販売と音楽出版業を営んでおり、この建物が日本楽器製造東京支店となつてからも共益商社の看板は残り、山葉オルガンや山葉ピアノのほか、さまざまなメーカーの楽器や音楽雑誌、教科書などを販売していた。また、共益商社出版部もここに残った。

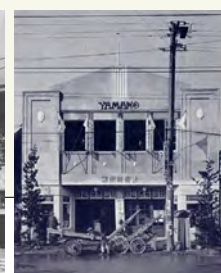
銀座から生まれた西洋楽器店

西洋文化がいち早く伝わった銀座の街は、1869(旧暦明治元)年に設けられた築地外国人居留地に近いこともあり、外国人宣教師・医師・教師のためにピアノやオルガンなどの西洋楽器や賛美歌などの楽譜を扱う店もいち早く登場している。

(写真左) 聖書の翻訳、出版、販売のため1874(明治7)年に開業し、西洋楽器の販売を他に先がけて始めた十字屋(現・銀座十字屋)。[B]
(写真右) ピアノ、オルガン、バイオリン、楽譜などを取り扱っていた、1892(明治25)年創立の山野楽器。[C]



十字屋
明治後期の店舗



山野楽器
関東大震災後の仮店舗

ヤマハの前身である日本楽器製造株式会社が、現在の銀座七丁目に東京支店を開設したのは、一九一〇(明治四十三)年頃のこと。

それから百十余年、何度かの建て替えを経ながらも、いまも変わらず同じ地で、ヤマハ銀座店は銀座の街とともにあり続けている。

「銀座のヤマハ」の歴史

始まりは明治時代



演奏者とオーディエンスの心地よいコミュニケーションの形としてデザインされた「key between people」。カフェスタンドのドリンクを楽しむテーブルとしても使用できる。



カップを置いた場所に光が当たり、さまざまな音が生まれる瞬間を楽しめる「music table」(写真上)。カフェスタンドでは、コーヒーの赤い果実を原料としたカスカラシロップを使ったレモネード(写真左)などのクラブドリンクのほか、ヤマハのロゴである「音叉マーク」のどら焼き(写真右)も購入できる。音符の「ド」「ラ」のどら焼きが出たらラッキー!

1F
ブランド
体験エリア
自由に弾けるテーブル型ピアノと
気軽に立ち寄れるカフェスタンドの
オープンなスペース

銀座通りに面した一階フロアでひととき存在感を放つのは、ビルの外からも目に留まるテーブル型電子ピアノとそれを囲む円形のベンチ「key between people」。誰でも自由に演奏することができ、「街の続きのような感じで、『銀座のストリートピアノ』と言ってもいいんじゃないかな」と曽根さん。さっそくお得意のジャズの即興アレンジを奏で始めると、壁面に配された二十五面マルチ大型ディスプレイが手元を映し出した。「一歩先の未来に行ったような感覚。どこにいてもかわからなくなるほど心地いい、夢のような空間ですね。今度、ここにYouTube用の動画を撮りに来たいです(笑)！」フロアの奥にはセルフ式カフェスタンドを併設。ユニークな仕掛けが施された「music table」にカップを置くと、上部に設置されたカメラがその位置を読み取り、テーブル上に投影された映像と反応して音が奏でられる。

「光と音がリンクしていて、すごく楽しい。永遠に眺めていられますね」

動画を撮りたくなる
「夢のような空間」



曽根麻央 [そね・まお]

トランペッター、ピアニスト、作曲家。トランペットとピアノの「二刀流」演奏でも知られる。18歳でパークリー音楽大学より全額奨学金を授与され渡米。2016年に同大学の修士課程を首席で修了。国際的に権威ある機関より数々の賞を受賞。2018年『InfiniteCreature』でメジャーデビュー。http://maosone.com



新しく生まれ変わった ヤマハ銀座店で 新しい音楽体験を!

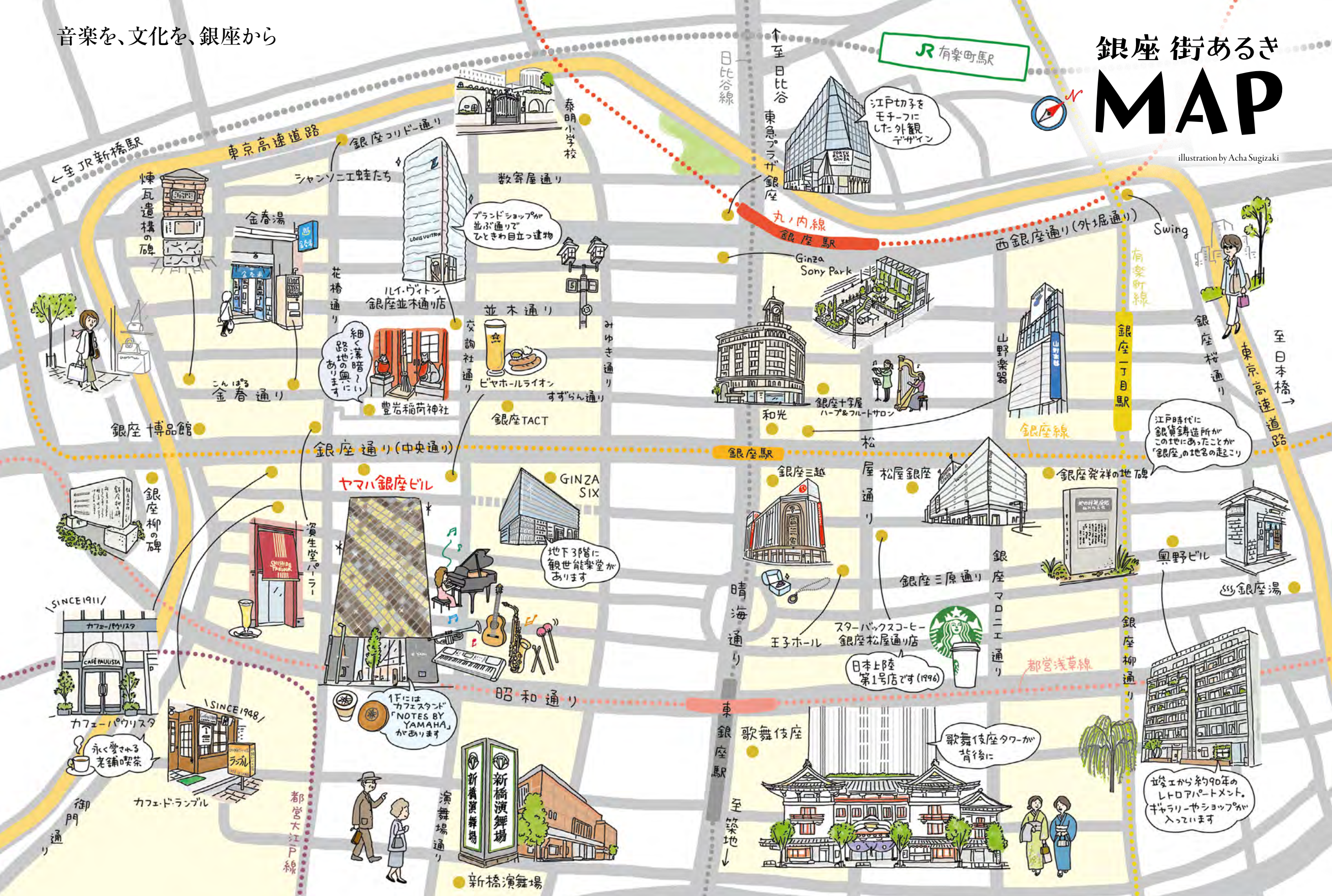
text by Moroko Fukuda photos by Takako Miyachi illustration by Yasuo Sudaika

この春、音楽との新たな出会いと発見を楽しめる体験型の「ブランドショップ」として、ヤマハ銀座店とヤマハミュージック名古屋店がリニューアルオープンした。ヤマハ銀座店は、昨年十月に先行してオープンした一階と二階に続き、四月十七日に地下二階と地下一階、地上三〜五階の計五フロアがオープン。ヤマハの楽器や音響機器に気軽に触れられるほか、楽器経験の有無を問わず、音や音楽とのさまざまな出会いや発見ができる場となった。今回、新しく生まれ変わったヤマハ銀座店を、トランペッター、ピアニスト、作曲家として活躍する曽根麻央さんに体験していただいた。幼いころからよくヤマハ銀座店を訪れていたという曽根さんに、果たしてどんな音楽体験が待っている?

音楽を、文化を、銀座から

銀座 街あるき
MAP

illustration by Acha Sugizaki



銀座8丁目

銀座7丁目

銀座6丁目

銀座5丁目

銀座4丁目

銀座3丁目

銀座2丁目

銀座1丁目